

日中対照研究方法論（３）

— “V＋O＋給・N” 表現をめぐる日中対照（上） —

A Methodology for a Contrastive Study in Japanese and Chinese (3)
: The “V＋O＋*gei*・N” Forms in Chinese and Their Corresponding
Expressions in Japanese (Part1)

成戸 浩嗣 Koji NARUTO

概要

周知のように、“給・N(ヒト)”を用いた他動詞表現の形式としては

- ① “給・N＋V＋O”
- ② “V＋給・N＋O”

が存在する。①、②はいずれも入門・初級の段階でとり上げられる形式であり、これらをあつかった先行研究は、日本語と対照させたものを含めてかなりの数にのぼるとともに、その構造や意味の分析においてもいくつか異なる考え方が提起されてきた。これに対し、

- ③ “V＋O＋給・N”

という形式は入門・初級の段階では通常はあつかわれることがなく、先行研究においてとり上げられることも①、②に比べると極めて少なく¹⁾、①、②との使い分けについての考察は現段階では充分であるとは言い難い。その理由の一つとしては、③が南方方言に由来する形式であることが挙げられよう。しかしながら、同形式について考察を行なうことは、普通話における“給・N”を用いた他動詞表現の全体像をより鮮明にうかび上がらせることにつながるだけでなく、動詞“給”が前置詞や助詞のような文法機能語に発展していく過程において、「動詞→前置詞→副詞」のような用法の広がりを経てきた“在”の場合や²⁾、“給”、“在”と同じく動詞の後置成分となって“V到”形式をとりえる“到”の場合とはどのように異なった展開の仕方をしてきたかについて知るためにも不可欠であると考えられる。

①、②の形式をとる表現に対しては「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)/テクレル」形式をとる日本語表現を対応させることが多く、例えば

- (1) 我给他买了一本书。／私は彼二本を1冊買っテアゲタ(テヤッタ)。(木村 2000:32 を一部修正)
- (2) 他给我买书。／彼はわたしに二本を買っテクレル。(張勤 1998:118)
- (3) 我寄给你一本书。／君二本を郵送しテアゲル。(佐々木 2006:181)
- (4) 他寄给我一封信。／彼は私に手紙を(送っテ)クレタ。(楊凱榮 1994:24)

のような対応例が存在する。これに対し③の場合は、①、②と同様に

- (5) 我买一本书给你。／君二本を買っテアゲル。(佐々木 2006:181)
- (6) 他买书给我。／彼はわたしに二本を買っテクレル。(張勤 1998: 117、118、120)

のような対応例が存在する一方で、例えば

(7) 我买书给他。／私は本を買ッテ彼にアゲル。(張勤 1998:107)

(8) 你沏杯茶给我。／君はお茶を一杯イレテ私に下サイ。(朱德熙著／松村・杉村訳 1988:196 を一部修正)

のような「～テ～スル」形式をとる日本語表現が対応するケースが存在し、①、②とはかなり性格の異なる形式であることがうかがわれる。また、①～③いずれの形式をとる表現に対しても

(9) 王五给李四送一块糖。／王五は李四ニ飴を一つ贈った。(張勤 1998:96)

(10) 他寄给我一包糖。／彼はあめを一包み私ニ送った。(西楨 1994:55)

(11) 张三寄一封信给李四。／張三は李四ニ手紙を一通出した。

(アン・Y・ハシモト著／中川・木村訳 1986:27)

のような「N・ニ Vする」形式をとる日本語表現を対応させるケースがみられるが、「N・ニ Oを Vテアゲル(テヤル)／テクレル」形式をとる表現を対応させるケースとの間にはどのような相違がみられるのだろうか。

本稿においては、③の形式をとる中国語表現を考察の中心にすえ、①、②の形式をとる中国語表現との使い分けや、日本語表現との対応関係において①、②の場合とはどのような相違がみられるかについて考察するための着眼点や分析方法、予測される結論について概観する。“给・N”を用いた他動詞表現に対し、従来とは異なる視点を設定した上で日本語との対照作業を行なうことにより、日中諸形式間の対応関係についての新たな知見を得ることが期待できるとともに、①、②の特徴について従来よりも一層正確に記述することが可能となろう。

キーワード

- | | |
|------------|------------------------------|
| 1. 受給／受益 | benefactive |
| 2. 動詞／前置詞 | verb/preposition |
| 3. 方向性 | direction |
| 4. 待遇表現 | hearer-oriented language use |
| 5. 接辞／補助動詞 | affix/auxiliary verb |

目次

- 1 “V+O+给・N”表現についての従来の記述
- 2 “V+O+给・N”表現の構造分析
 - 2.1 “V+O+给・N”表現の両義性
 - 2.2 “V+给・N+O”表現との相違
 - 2.3 “给・N+V+O”表現との相違
- 3 日本語との対応関係
 - 3.1 “V+O+给・N”に対応する日本語表現
 - 3.2 “V+给・N+O”に対応する日本語表現
 - 3.3 “给・N+V+O”に対応する日本語表現
- 4 おわりに

1 “V+O+給・N”表現についての従来の記述

“V+O+給・N”表現について、『現代中国語辞典(“給”の項)』には

- (12) 我给他写信。(私は彼に手紙を書く。)
(『現代中国語辞典』“給”の項)

のような“給・N+V+O”表現を

- (12)′ 我写信给他。(同上)

とするのはもと南方方言である旨の記述が、杉村 2006:68、86 には、広州(粵)方言においては“給・N+V+O”、“V+給・N+O”ではなく“V+O+給・N”が使用される旨の記述がそれぞれみられるのに対し、佐々木 2006:191 は、モノの受取手を文末に表示するタイプの受益文が北京³⁾、寧波、福州に共通して観察されとしている。これに対し、『岩波 中国語辞典(“給”の項)』には

- (13) 写信给你(手紙を書いて君に送る)
(『岩波 中国語辞典』“給”の項)

が挙げられているものの、方言的な性格については特にふれられておらず、これらによって“V+O+給・N”が普通話におけるスタンダードな形式か否かについては判断することができない。

一方、学校文法を記述した《汉语知识》:135-136、156 には、“V+O+給・N”形式をとる

- (14) 他还了一本小说给图书馆。
(《汉语知识》:135)
(15) 那个工厂寄了好些样品给我们。(同上)
(16) 公社又发了好些报刊书籍给每个生产大队。
(同上:136)
(17) 儿童节快到了,爸爸妈妈又要买糖果给我们了。我们又要吃糖果了。(同上:156)

が挙げられている。また、張伯江 1999:177 が“包含‘給’的形式至少可以概括为以下三种”として“A給RVP”、“AV給RP”、“AVP給R”(※A=agent、R=recipient、P=patient)を挙げ、

- (18) 他给我寄了一个包裹。(張伯江 1999:177)
(19) 他寄给我一个包裹。(同上)
(20) 他寄了一个包裹给我。(同上)

をそれぞれの形式に該当する表現例としているほか、朱德熙 1980 a:151、154、156、158-159 が、“給・N”を用いた他動詞表現の形式として

M_S+給+M′+D+M (①に該当)

M_S+D+給+M′+M (②に該当)

※M_S(充任主語の体詞性成分)、M/M′(充任賓語の体詞性成分)、D(動詞)

とともに

M_S+D+M+給+M′ (③に該当)

を、それぞれの形式をとる表現例として

- (21) 我给他写一封信。(朱德熙 1980 a:151)
(22) 我送给他一本书。(同上)
(22)′ 我送一本书给他。(同上)

を挙げた上で、各形式間の変換関係について述べている⁴⁾ため、普通話において“V+O+給・N”形式がその方言的な性格のゆえに一律に排除されているわけでもなさそうである。さらに、《外国人学汉语难点释疑》:83 は、

- (23) 给他寄一封信=寄给他一封信=寄一封信给他(《外国人学汉语难点释疑》:83)
(24) 给他打一个电话=打给他一个电话=打一个电话给他(同上)
(25) 给他留一个纸条=留给他一个纸条=留一个纸条给他(同上)

のような表現例について“三种说法意思一样”としている。「(異なる形式間で)変換可能である」、「意味が同じである」ということは、いわゆる知的意味が等しいということであり、同一の客観的事実を前提としていても何らかの相違が存在するとみるのが妥当である⁵⁾。このことは、張勤 1998:91 が“給・N”を用いた他動詞表現の基本的な統語構造として

S + 給 + I O + V + D O (①に該当)

S + V + 給 + I O + D O (②に該当)

とともに

S + V + D O + 給 + I O (③に該当)

を挙げつつも、このような統語構造の整理は“給”の抱えている多くの問題を説明することができないとしていることによっても理解できよう⁶⁾。いずれにせよ、これらの記述においては“V + O + 給・N”が方言的な性格を帯びた形式であるか否かについて特にふれられておらず、“給・N + V + O”や“V + 給・N + O”と併存するものとしてあつかわれているのである。

太田 1956:194-195 には、

動詞 + 実体詞 + 介詞 + 名詞

という形式について、北京語においては“給”に限らず一切の介詞にこの用法は存在せず、このような用法を認める考え方、認めない考え方の相違が生じる⁷⁾のは、中国語一般を対象とするか、北京語を対象とするかの相違による旨の記述がみられる。同：196 は、上記の形式をとる上海語の表現について紹介する一方、

(26) 我借给他钱。(私は彼に金を貸す。)

(太田 1956:196)

(26)' 我借钱给他。

(私は金を借りて彼に与える。)(同上)

は同一の内容を表わさず、(26)'の“給”は動詞であるとしている。これらの記述からは、北京語においては“V + O + 給・N”表現に対して“V + O + 前置詞(介詞)・N”のような分析が不可能であるものの、このことが普通話における“V + O + 給・N”表現についてもあてはまることを意味するものではないということが読みとれよう。このことは、佐々木 2006:181 が“V + O + 給・N”形式をとる北京語の表現として

(5) 我买一本书给你。

を挙げ、(5)は「モノの受取手としての受給者(受益

者ではない:筆者注)」を導く例であるとしていることとも矛盾しない。

以上のことから、“給・N + V + O”、“V + 給・N + O”とはその役割を異にするものの、普通話において許容される形式であるという前提で“V + O + 給・N”の考察を行なうことは可能であると考えられる。

2 “V + O + 給・N”表現の構造分析

2.1 “V + O + 給・N”表現の両義性

普通話における“V + O + 給・N”表現については、これをいわゆる連動式であるとする考え方がみられ、赵元任著/吕叔湘译 1979:161 は

(27) 送一份儿礼给他

(赵元任著/吕叔湘译 1979:161)

(28) 卖一本儿书给我(同上)

について“这里不是一个动词两个宾语，而是两个动词各带一个宾语”とし、朱德熙 1982:170 は

(29) 送一本书给他(彼に本を1冊やる)

(朱德熙 1982:170)

(30) 织了一件毛衣给他

(セーターを1枚編んで彼にやった)(同上)

※(29)、(30)とも日本語訳は、盧濤 2000:196

を“由动词‘给’组成的连谓结构”のタイプの一つとしている⁸⁾。また、高更生 1981:158、161 は

(31) 小张[给我]送一本书。(高更生 1981:161)

を“一般的主谓宾句”とする一方で、

(31)' 小张送一本书给我。(同上)

あるいは

(32) 他送书给我们。(同上:158)

(33) 你借书给他吧!(同上)

を“连动式”であるとしている⁹⁾。さらに張勤 1998:107 には、

(7) 我买书给他。

のような“V+O+給・N”表現は並立文であり、表記的には

(7)' 我买书, 给他。(張勤 1998:107)

でも可能である旨の記述がみられる¹⁰⁾。

“V+O+給・N”表現が連動式であるとすれば、“V+O”、“給・N”は別個の出来事を表わすこととなり、表現全体では二つの出来事を表わすこととなる。この点については、朱德熙 1980 a:157 が

(34) 我打一件毛衣给他 (朱德熙 1980 a:157)

においては“打毛衣和把毛衣给他是两件事”として、いるほか、沈家煊 1999:98 には、“V+給・N+O”、“V+O+給・N”はいずれも“惠予事物转移并达到某终点”を表わすが、前者においては“转移和达到是一个统一过程”であるのに対し、後者においては“转移和达到是两个分离过程”である旨の記述がみられる。但し朱德熙は、同 1980 a:156 において、“取得”という意味特徴を有する“买”を用いた

(35) 张三买一所房子给李四。

(朱德熙 1980 a:156)

については“张三买房子和张三把房子给李四是彼此分离的两件事”とし、“给予”という意味特徴を有する“卖”を用いた

(36) 张三卖一所房子给李四。(同上)

については“张三卖房子的过程, 就是房子由张三处转移至李四处(给予)的过程”とする一方で¹¹⁾、同 1982:170 の前掲記述のような考え方をとっていることから、同じく“V+O+給・N”形式の“连谓结构”であっても、“V+O”、“給・N”の表わす内容が二つの出来事としてどの程度明確に分離できるかがVによって異なるとみていることがうかがわれる。同 1980 a:157 に、Vが“给予”という意味特徴を有しない(ex. “买”のような“取得”、“打”のような“制作”という意味特徴を有する)場合には二つの出来事を表わすこととなる旨の記述がみられることから、表わされる出来事が一つか二つかはV

が“给予”という意味特徴を有するか否かによるという主張が読みとれ¹²⁾、(36)と同じく“卖”を用いた(28)についての赵元任著／吕叔湘译 1979 の記述との間に相違がみられる。いずれにせよ、“V+O+給・N”については、これを一律に二つの出来事を表わす形式であるとすることはできないと考えた方がよさそうである。

“V+O+給・N”表現を連動式とみることが可能なケースにおいては、“給”はVと同じく動詞であるということとなる。この点については、1 で紹介した太田 1956:196 の記述のほか、張勤 1998:107 も同様に、(7)のような“V+O+給・N”表現における“給”を動詞(本動詞)であるとし、そのことが形式上も明白な例として、“給”が“-了”、“-过”のようないわゆる時態助詞をとまう

(37) 我买书给了他。(私は本を買って彼にあげた。)(張勤 1998:107)

(38) 我以前买书给过他。(私は以前本を買って彼にあげたことがある。)(同上)

や、否定の“不”、“没”をとまう

(39) 我买了书也不给他。(私は本を買っても彼にあげない。)(同上)

(40) 我买了书没给他。(私は本を買ったが、彼にあげなかった。)(同上)

を挙げている。

一方では、“V+O+給・N”表現における“給”を一律に動詞であるとはしない見解もある。盧濤 1993:64、同 2000:188 は

(41) 张三买一本书给李四。(張三は李四に本を買ってやる。)(盧濤 1993:64、同 2000:188)

における“給・N”がV P か P P かは両義的(ambiguous)なものであるとした上で、(41)が「買ってから」「給」をするという動作の継起の意味を表わす場合の“給・N”は連動詞文の後項述語として機能するのに対し、文全体が一つの出来事を表わす場合の“給・N”は“买”の受益者(beneficiary)を示す付加詞(adjunct)であり、この違いは具体的な文脈において区別されるとしている¹³⁾。このような考え方は、前掲の朱德熙 1980 a:156 と異なり、「取

得」という意味特徴を有する動詞を用いた“V+O+給・N”表現が一つの出来事を表わすことを認めようとするものである。また、盧濤 2000:184 は、

- (42) 张三买书给李四 (張三は本を買って李四にやる／張三は李四に本を買ってやる)
(盧濤 2000:184)

における“給”は述語動詞と思われるが、未実現の状況として、「李四にやる」という授与の意味から「李四のため」という目的の意味に拡大解釈されうる場合があるとしている¹⁴⁾。盧濤の記述からは、“V+O+給・N”表現における“給”を、“給・N+V+O”表現における“給”と同様にいわゆる受益者を示す働きをすることも可能な成分として位置づけようとする姿勢がうかがわれるとともに、“V+O”、“給・N”の表わす内容が二つの出来事としてどの程度明確に分離できるかが発話の場面や文脈によって異なることがみてとれ、“給”の動詞としての性格の強弱もそれによって異なると推察される。さらに、朱德熙 1980 b :187 には、

- (43) 他写了一封信给我。(朱德熙 1980 b :187)

は多義文であり、“写”を“给予”、“制作”いずれの意味特徴を有するものと解することも可能である旨の記述がみられる¹⁵⁾。(41)～(43)のような表現例からは、普通話における“V+O+給・N”表現の中には連動式と非連動式との境界線上に位置するケースが存在することがみてとれるが、(43)についての朱德熙の見方は、このようなケースについての合理的な説明をするためにあえてなされたという面があるのではなかろうか。

2.2 “V+給・N+O”表現との相違

2.1 で述べたように、“V+O+給・N”表現については、これを連動式とする見解が存在する一方で非連動式とみられるケースも存在するものの、“給”の動詞としての性格がきわめて強いことは否定できないであろう。同表現の考察にあたっては、“V+給・N+O”表現との比較が不可欠となる。後者における“給”も前者のそれと同様に動詞としての性格が極めて強いからである。両者の相違をみることで、“V+O+給・N”表現の特徴がより一層鮮明にうかび上がってくるであろう。

周知のように、“V+給・N”の構造分析は、Vに前置詞句“給・N”が後置された形式とする見方と、“V+給”の部分をひとまとまりの成分としてそれに目的語としてNが続くとする見方に分かれている。前者の見方をとるものとしては、例えばアン・Y・ハシモト著／中川・木村訳 1986 が挙げられ、同:26-27 は

- (44) 张三寄给李四一封信。
(張三は李四に手紙を一通出した。)
(アン・Y・ハシモト著／中川・木村訳 1986 : 26)
(45) 张三送(给)李四一本书。
(張三は李四に本を一冊贈った。)(同上)

における“給”は前置詞であって複合動詞の一部ではないとしている¹⁶⁾。但し、このような見方が主流でないことは、興水・島田 2009 : 110、281 に、ガイドラインでは介詞連語の用途は修飾語に限られており、介詞連語を補語として動詞の後に置く用法は、古典語を引き継ぐ書き言葉の用法に限り認められ、“在、到、给”などを用いた介詞連語が補語に用いられるとする考え方はされていない旨の記述がみられることによっても明白である¹⁷⁾。一方、後者の見方をとるものとしては、例えば沈家煊 1999:99 が挙げられ、“‘V 给’几乎组合成一个复合动词”としているほか、“V 给”についての先駆的な研究である胡竹安 1960:222、224 にも同趣旨の記述がみられる。また、興水 1985 : 282、390 には、

- (46) 送给孩子们 (子どもたちにプレゼントする) (興水 1985 : 282)

における“送给”は動補連語であり、このような動補構造の複合語(“给”は前の動詞の結果補語)の後に賓語が並んだ動賓連語が(46)のような表現であると考えられる旨の記述がみられる。“V 给”を動補構造とみる考え方は郭春貴 2001 においても同様であり、同:370 はそのような例の一つとして

- (47) 这枝钢笔送给你吧。(この万年筆をあげる。)
(郭春貴 2001:370)

を挙げている。“V 给”内部の意味構造については、中川 1978 の記述が参考となろう。同:4 には、所有

権の移譲に関しては“送、交”など種々の手段・方法が考えられるが、そのような手段・方法を不問に付してその結果のみを問題にする時に“給”を主要動詞とする考え方がみられる¹⁸⁾。興水、郭、中川の記述からは、“V給”が表わす意味をV、“給”いずれの側からとらえるかの相違はあるものの、Vの側からみれば“給”は結果を表わし、“給”の側からみればVは動作の過程(働きかけ — 見方を変えれば手段・方法)¹⁹⁾を表わすのであって、両者は一体となって一つの出来事を表わすということがみてとれる。このため、V、“給”の空間的方向性が一致しない

(48) *买给他一本书

(朱德熙 1980 b:173、《外国人学汉语难点释疑》:84)

(49) *打给他一件毛衣

(《外国人学汉语难点释疑》:84)

は成立しないとされる²⁰⁾。但し一方では、

(50) 买给他一件衣服(私がお金を出して、買ってプレゼントとしてあげる)

(郭春貴 2001:370)

(51) 这个戒指就是买给你的。(この指輪はあなたに買ってあげたものだ。)(井上 2011:45)

(52) 他买给我书。(彼はわたしに本を買ってくれる。)(張勤 1998:111、118、120)

のような表現例もみられることから、“买给”のような表現がどの程度許容されるかについてはさらなる考察の余地があるようであり、「成立しにくい傾向にある」という方が中国語の実態に合った記述であるのかも知れない。“V给”においては“给”がVの結果と位置づけられることから、“V给”が表わす出来事は「動作の過程→結果」のような時間的方向性を有することとなり、V、“给”が表わす出来事の空間的方向性もおおのずとNが表わす事物に向けての単方向的なものであること、すなわちV、“给”の空間的方向性が一致していることが要求されると考えられる²¹⁾。

ところで、“V给”を連語あるいは複合語ではなく、一つの動詞とする考え方も従来からみられる。藤堂・相原 1985:72 には、“分给”、“交给”、“送给”、“借给”などは一つの動詞であり²²⁾、動詞の活用としての複合動詞よりも結合の度合いが強い旨の記述

がみられる。同様の考え方をとるものとしては高更生 1981 があり、同:161 は“‘给’紧连在单音节动词后面，能构成一个动词，一起作句子成分。”として

(53) 小张送给我一本书。(高更生 1981:161)

のような表現例を挙げた上で、“单音节动词和‘给’构成的动词，在句中的用法和动词‘给’类似。”としている。“V给”を一語とする見方の根拠としては、胡竹安 1960:223、沈家煊 1999:99 の記述にみられるように、“给”が轻声に読まれる場合がある(それぞれ“V给”を“复合词”、“复合动词”とする)点や、

(54) 我寄给了他一包糖。(西楨 1993:43)

(55) 他递给了我一支烟。(同上)

(56) 我找给了他两块钱。(同上)

のようないわゆる時態助詞の“-了”をとともなうケースがみられる点が挙げられる²³⁾。但し、張勤 1998:124 に、“V给”は

(57) 昨天我寄给了她一封信。(昨日わたしは彼女に手紙を一通出した。)(張勤 1998:124)

のように“-了”をとともなうことが可能である一方、

(58) *以前我寄给过她一封信。(以前私は彼女に一通の手紙を出したことがある。)(同上)

のように“-过”をとともなうことはできない旨の記述がみられることから、“V给”の語としての完成度がどの程度であるかについては慎重な判断が求められよう²⁴⁾。“V给”を一語とみた場合には、“给”はいわゆる形態素(“构词成分”、“构词的语素”、“动词的语素”、“动词的词素”などとよばれる)であることとなる²⁵⁾。“V给”を一語とする説は、Vが一音節動詞である場合に限定して展開されるのが通例であり、例えば

(59) 我推荐给他一名英语教师。(私は彼に英語の教師を一名推薦する。)(同上:94)

のような二音節動詞を用いたケースは除かれる。沈家煊 1999:100 の記述にみられるように、そもそも二音節動詞は用いられにくい傾向にある。また、同じ

く一音節動詞を用いた“V給”であっても、Vが異なれば“V給”の一体性の強弱に差異がみられることは十分に考えられる²⁶⁾。さらに、

(60) 我把那本书寄给他了。(あの本を彼に郵送してあげた。)(郭春貴 2001:370)

(61) 我已经把那个交给他了。(私はあれを既に彼に渡しました。)(同上:247、248)

のような“把・O+V+給・N”表現においては、“V給”の一体性が“V+給・N+O”の場合と同程度に強いとは考えにくいのではなかろうか。李臨定著／宮田一郎訳 1993:266 が、“把”を用いた表現のタイプの一つには述語の後に介詞連語補語をとまうものがあるとして

(62) 他把信放在桌子上。

(彼は手紙を机の上におきました。)

(李臨定著／宮田一郎訳 1993:266)

のような“把・O+V+在・N”表現を挙げていることから、(60)、(61)や

(63) 我把这本书借给你。(わたしはこの本をきみにかしてあげよう。)(興水 1985:286)

のような“把・O+V+給・N”表現における“給・N”を補語と位置づけることには一定の合理性があると考えられる²⁷⁾。ちなみに、朱德熙著／中川・木村編訳 1986:137-138 に、“坐在椅子上”の場合には“坐在／椅子上”という分析をすべきであるのに対し、“送给他”の場合には“送／给他”、“送给／他”いずれの分析も可能である旨の記述がみられることから、**“V給”**よりも**“V在”**の方が一体性においてまさっていることがうかがわれる。

このように、“V+給・N+O”表現の構造分析については、“給・N”をひとまとまりの成分(前置詞・N)とする考え方、“V+給”をひとまとまりの成分(連語 or 複合動詞、一つの動詞)とする考え方が存在する一方で、双方を許容する立場も存在する。太田 1956:183、185 には、現代の北京語における

a. 動詞+給+実体詞

b. 給+実体詞+動詞

の“給”をいずれも介詞であるとする《新著國語文法》:124-125 の見方が紹介され、aの“給”に対しては主動詞と合わせて複合動詞とみることもできる旨の記述がみられる一方、「貸す」を表わす“借”が間接賓語をとまなわない場合に“給”が使えない点から言えば、動詞のすぐ後に続く“給”は介詞とするのがよく、“教给我”の重複形が“教给教给我”となる点から言えば、介詞とするのはおかしいとしている²⁸⁾。

以上のように、一つの表現形式について異なる分析方法が提唱されている場合には、いずれが正しいかの判断よりも、このように見解が分かれるのはなぜかという点に着目してその要因を探っていく方が、言語現象を記述する上では意義のあることであろう。荒川 1985:16 が“給”は“V給〜”となってモノの移動先を示すことがあるとしている点や、2.1 で紹介したように、沈家煊 1999:98 が“V+O+給・N”表現の場合とは異なって“V+給・N+O”表現においては“转移和达到是一个统一过程”としている点、さらには、興水・島田 2009:110-111 が

(64) 这本书快还给他吧。(この本ははやく彼に返しなさい。)(興水・島田 2009:110)

における“还给”について、「…に…を」という2つの賓語を同時に並べることができるが、物を表わす賓語はなくてもよく、また物を表わす賓語のみを単独でとることはできず、必ず人(あるいは対象)を表わす賓語が必要であるとしている点からは、“V+給・N”を「動詞+前置詞句(=補語)」、「動詞+目的語」のいずれかに確定しようとすることの限界がみてとれよう²⁹⁾。沈家煊 1999:99-100 が、

(65) 教给他一课书(沈家煊 1999:99)

における“教”について“‘教’等动词虽然表示‘给予’，但转移和动作是一个统一的过程”としていることや、“取得”という意味特徴を有する“买”を用いた(48)および“制作”という意味特徴を有する“打”を用いた(49)がいずれも非文とされること、さらには、朱德熙著／中川・木村編訳 1986:189-190 に、授与の意味をもたない動詞(=“給”と空間的方向性が一致しない動詞:筆者注)は

(66) *买给我一件毛衣

(朱德熙著／中川・木村編訳 1986:190)

のように非文となるのに対し、授与の意味をもつ動詞は

(67) 卖给他一斤鱼 (同上:189)

のように成立する旨の記述がみられること³⁰⁾も、“V+給・N”の一体性を裏づけるものであると考えられる。

前述したように、“V+給・N+O”表現においてはV、“給”の空間的方向性が一致していることが要求されると同時に、“V給”が一体となって一つの出来事を表わすため、空間的方向性が一致しない“买給”、“打給”のような場合には“买”と“給”、“打”と“給”がそれぞれ別個の出来事を表わすこととなって成立しにくい傾向にある。これに対し“V+O+給・N”表現の場合には、朱德熙 1980b:186に、“给予”、“取得”、“制作”のいずれを表わすVを用いることも可能である旨の記述がみられることから明白なように、V、“給”の空間的方向性が一致するか否かにかかわらず成立し、“V+O”と“給・N”が別個の出来事を表わすことが可能である。

ところで、“V+O+給・N”表現は常に二つの出来事を表わすわけではなく、“V+O”、“給・N”が別個の出来事を表わすか否かについての判断が発話の場面や文脈によって、あるいはVがいかなる意味特徴を有するかによって分かれるケースがあることは2.1で述べた通りである。一つの出来事を表わすケースにおいては“V+給・N+O”表現との相違が微妙なものとなるため、

(68) 我还给他。(僕は彼にお金を返す。)

(楊凱榮 1994:24)

(68)’ 我还给他钱。(同上)

を意味上ほとんど同じであるとする楊凱榮 1994:24のような記述がなされるのもやむを得ない。このような場合には、どのような視点から検討を加えるべきであろうか。一つには、情報構造や談話における適格性の相違が挙げられよう。例えば木村 1991:138は、

(69) 我要送这本书给他。(私はこの本を彼に贈る(つもりだ)。) (木村 1991:138)

(69)’ 我要送给他这本书。(私は彼にこの本を贈る。)(同上)

の知的意味は同じであるものの情報構造には違いがあり、(69)では“这本书”が旧情報を、“他”が新情報をそれぞれになっているのに対し、(69)’では“他”が旧情報を、“这本书”が新情報をそれぞれになっているとしている。同様に、盧濤 2000:63には

(45) 张三送给李四一本书。(張三は李四に本を1冊やった。)(盧濤 2000:63)

※アン・Y・ハシモト著／中川・木村訳 1986:26では“张三送(给)李四一本书。(張三は李四に本を一冊贈った。)”

における“李四”は

(45)’ 张三送一本书给李四。(張三は李四に本を1冊やった。)(同上)

におけるそれに比べると旧情報の読みが強い旨の記述がみられる。また、山口 1988:224-225は、一般に文は旧情報から新情報へという情報の流れをもっているとし、そのことを示す例として、湯廷池 1985における

(70) 我要送(给)小明一本书，不是一支钢笔。

(私は小明に一冊の本をあげたい、一本の万年筆ではない。)(山口 1988:225)

(70)’ ? 我要送一本书给小明，不是一支钢笔。

(?私は一冊の本を小明にあげたい、一本の万年筆ではない。)(同上)

(71) 我要送一本书给小明，不是(给)小华。

(私は一冊の本を小明にあげたい、小華ではない。)(同上)

(71)’ ? 我要送(给)小明一本书，不是(给)小华。

(?私は小明に一冊の本をあげたい、小華ではない。)(同上)

のような表現例を挙げている。(70)’、(71)’が不自然であるのは、それぞれの前件における新情報たる“小明”、“一本书”と後件内容との間に矛盾が生じているためである。

一方、木村 1991:140-145は、久野 1978:296が提唱した仮説、すなわち、「文中の語順は軽い要素から

重い要素へと進むのを原則とする」という「軽から重への語順の原則」を用いて

- (72) ?我要送给一位专门研究语义与语用的朋友
这一本书。(私は一人の意味論と語用論を
専門に研究している友人にこの本を贈る。)

(木村 1991:142 湯廷池 1985:10)

- (72)' 我要送这一本书给一位专门研究语义与语
用的朋友。(私はこの本を一人の意味論と語
用論を専門に研究している友人に贈る。)

(同上)

のような表現例の成立の可否を説明している³¹⁾。

このように、“V+O+给・N”、“V+给・N+O”いずれの形式が選択されるかの要因は一つではなく、表現の前提となる客観的事実において出来事が一つか二つかによる場合もあれば、情報構造や談話における適格性に起因する場合もあり、さらには1で述べたような方言的な要因による可能性も考えられるといったように多面的である³²⁾ため、いずれが主たる要因として働いているかを見極めることが重要である。

2.3 “给・N+V+O”表現との相違

2.1で述べたように、“V+O+给・N”表現を連動式とする見方が存在するが、“给・N+V+O”のような“前置詞・N+V+O”表現も(“V+O+给・N”表現とは異なったタイプの)連動式とみることが可能であり³³⁾、“给”をはじめとする前置詞の多くが動詞から変化したものであることによってもこのような見方は不自然ではない。このことは、“给・N+V+O”表現における“给”が動詞としてのふるまいをする

- (73) 你给不给她写信?

(君は彼女に手紙を書くか。)(張勤 1998:124)

のようなケースが存在することや、朱德熙 1980 a:158 が

- (74) 我给妹妹买了一辆车。(朱德熙 1980 a:158)

- (75) 你给客人沏杯茶。(同上)

- (76) 我给你打件毛衣。(同上)

について、“给”は介詞还是動詞不容易判定,因为在

这类句子里,给予的意义老是伴随着服务的意义一起出现。其中的M'(间接宾语)可以看成受者,也可以看成服务的对象。”としていることから理解できよう³⁴⁾。

2.1で紹介したように、高更生 1981:161 は

- (31) 小张给我送一本书。

を“一般的主谓宾句”としているが、これは、“给・N+V+O”における“给・N”が“V+O”の連用修飾成分と位置づけられることによるものであり、このような考え方によれば、同形式が表わす出来事は一つであること、すなわち(31)の基本的な構造は

- (31)”小张送一本书。

であるということとなる。しかし、“前置詞・N+V+O”、連動式のいずれに解するかについて見解の分かれる“用・N+V+O”のような形式が存在することを考え合わせれば³⁵⁾、“给・N+V+O”表現に対してもこれを連動式とする見方を完全に排除することはできず、“给”が「授与」の意味をより強くとどめていけば、連動式としての性格もより強いとみるのが自然であろう³⁶⁾。また、朱德熙 1980 a:158 に、

- (77) 我给他买一辆车。(朱德熙 1980 a:158)

は“替他买车”、“买车给他”のいずれを表わすことも可能な多義表現であり、前者の内容を表わす場合の“给”の働きは“表示服务”であって前置詞と位置づけられるのに対し、後者の内容を表わす場合の“给”の働きは“表示给予”であって動詞と位置づけられる旨の記述がみられることから、“前置詞・N+V+O”としての“给・N+V+O”と連動式としての“给・N+V+O”との間に連続性が存在することがみてとれる³⁷⁾。また、“给・N+V+O”表現が使役を表わす場合には、“给”が動詞としての性格を濃厚にとどめつつ機能語として働くこととなる³⁸⁾が、“前置詞・N+V+O”形式の使役表現は一般にはいわゆる兼語式と位置づけられる一方で、兼語式と連動式との間に明確な線引きをすることについて懐疑的な先行研究がある³⁹⁾のも事実であり、この点からみても、“给・N+V+O”表現が連動式であることは否定できないと考えられる。このよ

うに、同じく“給・N+V+O”形式をとる表現であっても、“給”の動詞としての性格の強弱には様々な段階が存在し、“給”の動詞性が極めて強い場合には表現全体は連動式としての性格が強く、弱い場合には“前置詞・N+V+O”表現としての性格が強いと考えられる。

この反面、“給・N+V+O”が連動式から“前置詞・N+V+O”の方向に発展していった形式であること、換言すれば、二つの出来事を表わす形式から一つの出来事を表わす形式へと発展していった形式であることは、“替・N+V+O”表現と同様の内容を表わすことが可能な(77)のようなケースや、“給”が“把”、“被”などのような純然たる機能語に近い成分として働くケースが存在すること⁴⁰⁾からも明白であり、連動式としての性格が極めて強い“V+O+給・N”とは大きく異なるのである。このことは、沈家煊 1999:98 が、“給・N+V+O”、“V+O+給・N”における“給・N”の働きについて、前者は“表示预定的目标(Goal)”、後者は“表示达到的终点(Destination)”であり、“目标总是在行动之前先行设定”、“终点总是在动词之后才能达到”としていることに象徴されているとみてさしつかえない⁴¹⁾。沈家煊の考え方によれば、述語の表わす出来事は、“V+O+給・N”表現の場合には時間の流れに沿って「V+O → 給・N」のように実現するのに対し、“給・N+V+O”表現の場合にはそうではないこととなり⁴²⁾、この点からも、“V+O+給・N”が“給・N+V+O”に比べ、連動式としての性格が強いことが裏づけられよう。

(3以下は次号に続く)

注

- 1) 杉村 2006:67 は、“他送一瓶好酒给我。”のような“连谓”型の構文は、動詞の個性と構文の成否との間に密接な相関関係をもたず、標準語において活躍する構文とも認められないとしている。
- 2) “在V”における“在”は副詞あるいは助詞とされるのに対し、“給V”における“給”は助詞とされる。この点については、向若 1960:64-65、興水 1985:281-282、袁明军 1997:181、沈家煊 1999:99-100 を参照。“給”の助詞としての用法については、内藤 1997、刘永耕 2005:130-132、成戸 2015 a :81、同 2015 b :21-22、《现代汉语八百词(“給”の項)》、《现代汉语词典(“給”の項)》を参照。高更生 1981:162 は、“給V”における“給”

をその意味によって“動詞”、“介詞”、“助詞”に分類している。ちなみに、沈家煊 1999:95 には、“在V+O”、“給V+O”がそれぞれ“在・N+V+O”、“給・N+V+O”の“压缩形式”である旨の記述がみられる。

- 3) 施关淦 1981:35-36 には、“我写给他一封信。”は“地道的北京人的说法”ではないようであり、この表現が表わすコトガラをいわゆる“老北京”は“我给他写一封信。”によって表わすのが一般的であるが、時には“我写一封信给他。”が用いられることもある旨の記述がみられる。
- 4) 但し朱德熙 1980 a :151 は、(21)、(22)、(22)’における“給”をいずれも動詞であるとしている。この点については、さらに同 1982:170-172 を参照。
- 5) 朱德熙 1980 b :173 には、3つの形式に“给予”、“取得”いずれの意味特徴を有する動詞が用いられるかによって明らかな相違が存在する旨の記述がみられる。この点については、さらに《外国人学汉语难点释疑》:83-84 を参照。
- 6) 張勤は、ここに挙げた3つの形式に“S+給(=V)+IO+DO”、“S+給+IO+V(またはVP)”を加えた5つを基本的な統語構造であるとしている。ちなみに、同 1998:102 は“医生给病人打电话。”、“医生打给病人电话。”、“医生打电话给病人。”という表現例を挙げ、いずれに対しても「医者は患者に電話する。」を対応させている。
- 7) 太田は、前者の考え方をとるものとして《新著國語文法》:124-125 を、後者の考え方をとるものとして倉石 1954:39 を挙げている。
- 8) 但し朱德熙は、“送给他一件毛衣”、“给他织了一件毛衣”のようなタイプも“由动词‘给’组成的连谓结构”の範疇に含めている。これに対し盧濤 1993:65、同 2000:190 は、“送”を用いた“V+O+給・N”表現を連動式とはしていない。楊欣安 1960:66 には、“春玲送一条手巾给父亲。”における“送一条手巾”、“给父亲”が二つの動作を表わし“复杂谓语”を構成している旨の記述がみられる。
- 9) (5)および佐々木 2006:191-192 の“我削苹果给你。(僕はリンゴを剥いて君にあげる。)”、“他拿照片给我。(彼は写真を持ってきて僕にくれた。)”も連動式としてなら北京語で成立可能であると考えられ、後2者には日本語表現にそれが反映されている。注3で挙げた“我写一封信给他。”も連動式の可能性がある。
- 10) これに対し李臨定著／宮田一郎訳 1993:414 は、いわゆる連動文における動詞連語間には息の休みがはいらず、これらの間の意味関係は並列関係ではない(“和”“而”などの並列連詞を加えることができない)としている。
- 11) 同様の記述が朱德熙 1980 b :173 にもみられ、“买一本书给他”については“买书和把书给‘他’是彼此分离的两件事”、

“卖一本书给他”については“卖书的过程就是把书给‘他’的过程”とされている。同:186には、“V+O+给・N”表現には“给予”、“取得”、“制作”いずれの意味特徴を有する動詞を用いることも可能である旨の記述がみられる。ちなみに、盧濤 1993:64、同 2000:187は“?张三卖一本书给李四。”を不自然な表現であるとする一方、同 1993:63、同 2000:183は“张三送一本书给李四。”は成立するとし、この表現における“给李四”をP P (前置詞句) であるとしている。

- 12) “V+O+给・N”表現に用いられる動詞の具体例が朱德熙 1980 a :155-157 にみられ、“给予”という意味特徴を有する動詞を用いたケースとしては“我卖了一批书给图书馆。”、“我送一张票给小李。”、“他让了个坐位给我。”が、“取得”という意味特徴を有する動詞を用いたケースとしては“我买了一批书给学校。”、“我抢了一张票给小李。”、“他要了杯啤酒给我。”が、“制作”という意味特徴を有する動詞を用いたケースとしては“你沏杯茶给客人。”、“我刻了块图章给李老师。”、“我炒了盘鸡子儿给他。”、“我打了一件毛衣给他。”がそれぞれ挙げられている。
- 13) 盧濤 1993:65、同 2000:188 は、(41)の“给”が動詞の場合にはその前にポーズをおいて変調なしに読まれる(この点は(7)、(7)’についての張勤 1998:107 の記述と一致する)が、ポーズをおかずにそれ全体を弱く読むと受益者を示すとしている。ちなみに、同 1993:64、同 2000:186-187 には、“他顺手拿起蜂王浆给气功师。(彼は無造作にロイヤルゼリーを手にとって気功の先生にあげた。)(《爱你没商量》)”における“给”には受け手をマークする機能が付与されていないのに対し、“他递一张名片给我。(彼は私に名刺を1枚くれた。)(同上)”における“给”にはそれが付与されている旨の記述がみられる。
- 14) 盧濤 1993:65、同 2000:188-189 は、“张三画一张画给李四。(張三は李四に絵を一枚描いてやる／やった。)”についても同様の分析を行なっている。同 1993:65、同 2000:189-190 は、動詞と preposition の相違点についての CHAO Yuen Ren 1968 の記述を参考としてこれらの表現における“给”の非動詞性について述べている。
- 15) “写”が“给予”、“制作”いずれの意味特徴を有することも可能なケースが存在する点については、さらに朱德熙 1980 a :161-162、朱德熙著／中川・木村編訳 1986:190 を参照。ちなみに施关淦 1981:35 は、“写”が“给予”の意味特徴を有するケースがあるという考え方をとらない。(43)の場合とは異なり、“他临走的时候写了一封信给我，让我转交给你。(彼は出かけるにあたって一通の手紙を書いて私にあたえ、私に君にわたすよう言った。)(朱德熙 1980 a :162、同 1980 b :187、朱德熙著／松村・杉村訳

1988:208)”における“写”が同 1980 b :187 の記述にみられるように“制作”という意味特徴を有するとされるのは、“写了”、“给我”が別個の出来事であることが後件内容から明白であるためと考えられる。

- 16) 《现代汉语八百词(“给”の項)》、《现代汉语虚词例释(“给”の項)》、『中国語虚詞類義語用例辞典(“给 替 为”の項)』はいずれも“给”を介詞(前置詞)としてあつっている。ちなみに杉村 2006:69 は、このような見方がなされる歴史的な要因などについてふれている。
- 17) 奥水・島田 2009:110 には、かつては“在、到、给”の後に場所や時間を表わす語句を置く介詞連語が、前置された動詞の補語になると説明されることが多かったが、このような説明は合理性が劣る旨の記述がみられる。
- 18) “V给”におけるVが手段・方法を表わす点、“给”を動詞とする考え方については注4および刘永耕 2005:135、井上 2011:44 を参照。中川 1978:4、朱德熙 1980 a :168、同 1983:161、龚千炎 1983:241 には、“给”を“给给”によって説明しようとする考え方についての記述がみられる。盧濤 1993:63、同 2000:182 は“V给”における“给”を複合動詞の後項動詞とする見方をとらない。ちなみに、山口 1993:132-139 は、「動詞+結果補語」形式をとる成分を、動詞、結果補語のいずれが「主要部」であるかによって大きく二つに分けている。「主要部」については、さらに同 1991、石村 1999:142、成戸 2014:8-9 を参照。
- 19) 動作の過程を表わすVの働きが端的にあらわれているのが“*我曾经送给她一件毛衣，她不收。／我曾经送一件毛衣给她，她不收。(沈家煊 1999:99)”の成立状況であると考えられ、結果までを含意した“送给”を用いたケースは非文とされる。「動詞+結果補語」が表わす「動作の過程(働きかけ) — 結果」については、“V到”についての考察を行なった成戸 2014:11-13 を参照。
- 20) この点については、太田 1956:184、朱德熙 1980 a :156-157、同 1980 b :173、186、朱德熙著／中川・木村編訳 1986:188-190、盧濤 1993:64、同 2000:187-188、杉村 2000:64、同 2006:67-68、77、井上 2011:41-45 を参照。施关淦 1981:36 は“我写给他一封信。”について、“这种说法已进入书面语却是个事实。这可能是受某种外语或某种方言的影响所致，好像也已经约定俗成，光从语义、逻辑上是难以解释清楚的。”としている。
- 21) 「動詞+結果補語」における「空間的帰着点」と「時間的帰着点」の一致、重なり合いについては、木村 1981:41 および“见”、“看到”、“看见”についての考察を行なった成戸 2014:141-146 を参照。
- 22) 『現代中国語辞典(“给”の項)』には、動詞自身に授与の意味を持つものは“给”をつけてもつけなくてもよいが、

つけた場合には“V給”は一語として働く旨の記述がみられる。

- 23) この点については興水 1985:390 を参照。沈家煊 1999:94 に挙げられている“我写给她一封信。/*我写了给她一封信。”の成立状況からは、“V給”の一体性がみてとれる。これに対し、盧濤 1993:63、同 2000:182 には、“了”が“V給”に後置される点をもって“給”は複合動詞をつくる成分であるとするものの非合理性についての記述がみられる。
- 24) 張勤によれば、“以前我寄过一封信给她。”であれば成立する。胡竹安 1960:222 は“分给”、“卖给”、“寄给”などに“了/过”を付加することが可能であるとしているのに対し、沈家煊 1999:95、100 には、已然を表わす“V+給・N+O”表現の場合は付加することができない旨の記述がみられる。この点については、さらに杉村 2006:73-74 を参照。
- 25) この点については郭翼舟 1957:62、胡竹安 1960:224、高更生 1981:156、162 などを参照。
- 26) “V到”形式をとる成分の場合にもこのような差違がみられ、「動詞+結果補語」とされるのが一般的である一方で、“感到”のように一語として辞書に収録されているものもある。これらの点については大河内 1980:65、黄華 1992:630-632、成戸 2014:8-11 などを参照。
- 27) これらの点については、胡竹安 1960:223、興水 1985:282-284、289、390、《現代漢語八百詞(“把”の項)》を参照。一方、《實用現代漢語語法》:740 は“上午，我把家庭作業本交給老師了。”の“老師”を“賓語”としている。沈家煊 1999:101 には、“把・O+V+給・N”表現に“了”が用いられる場合にも“給”の後に置かれる旨の記述がみられる。ちなみに成戸 2014:35 では“把・O+V+到・N”表現における“到・N”の位置づけについてふれた。
- 28) 盧濤 2000:182-183 には、“??張三送給不送給李四一本書。”が成立しないことから、“送給”が単純な複合動詞ではない旨の記述がみられる。
- 29) 朱德熙 1982:175 は、“住在家里”に対して“住/在家里”、“住在/家里”という二つの分析方法が可能であるとしながらも後者の立場をとっている。佐々木 2006:181 は、北京語の“我寄給你一本書。(君に本を郵送してあげる。)”における“給”の役割について「補助動詞のように他の授与動詞の後ろに現れ、二重目的語構文の形式を支えている」としている。“V+給・N”の一体性については、さらに関 2001:156 を参照。ちなみに、興水 1985:390 が、“V到”は賓語を省略する場合があるほか、中間に“得、不”を挿入して可能補語をもつ動補連語にかえられる例があるなど、“V在”、“V給”とは異なり動詞性をはっきりし

ているといえるとしていることから、Vの後に“到”、“在”、“給”のいずれが付加されるかによってもVとの一体性に強弱の差異が存在することがみてとれる。

- 30) この点については、注 20、沈家煊 1999:96 を参照。但し、注 15 でふれた“写”のように、動詞が授与の意味をもつか否かについての判断が微妙なケースもある。朱德熙著/中川・木村編訳 1986:190 は、“他写給我好几封信。(彼は私に何通もの手紙を書いた。)”の場合には“写”に授与の意味があるのに対し、“*他写給我一副春联儿。(彼は私に春聯を一つ書いた。)”の場合には授与の意味がないとしている。この点についてはさらに朱德熙 1980b:186-188、沈家煊 1999:94-95、劉永耕 2005:133、杉村 2006:75-76、83-84 を参照。沈家煊 1999:95-96 は、“*沏給我一杯茶”が非文法的である一方で、“写給我一副春联”、“每一回他都給我沏杯红茶，这一回他沏給我一杯龙井。”が少なくとも一部の人々に許容される例を挙げて“从典型的给予动词到典型的非给予动词这两端之间是一个连续统。”としている。
- 31) 木村 1991:140-145 は、軽重をはかる基準として久野が提唱した「その要素が長ければ長いほど重くなる」、「節的性格が強ければ強いほど重くなる」によって、二重目的語構文や存現文を分析している。これに対し、盧濤 1993:63-64、同 2000:185-186、杉村 2006:85 には上記の原則とは異なる記述がみられる。
- 32) 表現形式の選択をめぐる情報構造や談話における適格性の問題については、さらに関 2001:162-164、杉村 2006:71 を参照。特定の表現形式が選択される要因の多面性については、感覚動詞を用いた“V到”、“V見”についての考察を行なった成戸 2014:100 を参照。
- 33) この点については朱德熙 1982:160、175、劉永耕 2005:136、興水・島田 2009:281 を参照。
- 34) 朱德熙は、(74)~(76)が“給予”を表わす場合の“給”を動詞、“服务”を表わす場合の“給”を前置詞としている。これに対し、“大夫給病人打针。”、“你給孩子们讲个故事。”、“我給你较头发。”の“給”について“显然是介词”としているのは、表現の前提となる客観的事実においてモノの授受をとまなわないためと考えられる。ちなみに同 1980a:160-161 には、“V+O+給・N”形式に変換可能な“給・N+V+O”表現における“給”が動詞である旨の記述がみられる。同:151 が(21)の“給”を動詞としている(注 4 を参照)ことから、“給・N+V+O”表現における“給”を前置詞、動詞のいずれとするかの判断が極めて微妙なものであることがみてとれる。
- 35) 《現代漢語八百詞(“用”の項)》が“用・N+V(+O)”表現を連動式としているのに対し、《現代漢語虚詞例釋

》:499 は「前置詞句+動詞」構造であるとしている。この点については成戸 2009:28-29 を参照。

- 36) 前置詞“給”の語彙的意味に強弱の差異がみられる点については、成戸 2015 a :79-80 を参照。
- 37) 袁明军 1997:191 には、“你给我打个电话，说我抽不出空儿来，不能回去过春节了。”における“你给我打个电话”は“你替我打个电话给别人”の意味であるのに対し、“到家之后，你给我打个电话，省得我惦记。”におけるそれは“你打个电话给我”の意味である旨の記述がみられる。盧濤 2000:196-197 は、“给他织了一件毛衣(彼のためにセーターを1枚編んでやった)／*给我送了一本书(私に本を1冊くれた)”についての記述の中で、“給”を前置詞と動詞に分けることについて疑問を呈している。この点については、さらに杉村 2006:67-68、88 を参照。
- 38) この点については、成戸 2016 a :31-34 を参照。ちなみに盧濤 2000:188 は、“V+O+給・N”形式をとる(41)に“看”を付加した“张三买一本书给李四看。”における“給”は動詞と認めるべきであるとし、同:184 は、“张三买书给李四看。(張三は本を買って、李四に(渡して)読ませる。)”の“給”は使役に関するものではあるが、より抽象的な述語動詞とみなしてよいとしている。このタイプの使役表現については、さらに佐々木 2006:191 を参照。
- 39) この点については、太田 1958:256、泉 1985:35、望月 1994:35、佐々木 1997:138-140、三宅 2007:345-346、成戸 2016 b :31-32 を参照。
- 40) (77)のような“給・N+V+O”表現が“服务的意义”を含む点について、朱德熙 1980 a :159 は“这种服务的意义显然是从给予的意义派生出来的(给予本身就可以看成是一种服务)，并不是其中的‘给’的介词性赋予它的。”としている。同表現のこのような用法については、さらに袁明军 1997:185、成戸 2016 b :34-35 を参照。前置詞“給”が具体的な意味を失い、“把”や“被”に近くなることがある点については呂叔湘 1979:40 において言及されている。
- 41) ちなみに、沈家煊は“給・N+V+O”と“V+O+給・N”、“V+給・N+O”との相違について論じており、“V+給・N+O”における“給・N”の働きについても“表示达到的终点”としている。
- 42) 関 2001:159 は沈家煊 1999:97-98 の“顺序原则(時系列の原則)”を引用しつつ、“我寄给他一本书。”の場合には“寄→给他(一本书)”の順序で、“我给他寄一本书。”の場合には“给他→寄一本书”の順序で事態が生じたことを表わすとしている。

引用文献

- 荒川清秀 1985.「動詞(4)〔動詞とその相手〕」,『中国語』1985年10月号,大修館書店,14-16頁。
- アン・Y・ハシモト著／中川正之・木村英樹訳『中国語学研究叢書1 中国語の文法構造』,白帝社(1986)。
- 石村広 1999.「現代中国語の結果構文——日英語との比較を通じて——」,『文化女子大学紀要 人文・社会科学研究』第7集,141-155頁。
- 泉敏弘 1985.「北方『給』使役・被動用法の来源」,『中国語学』第232号,中国語学会,33-43頁。
- 井上優 2011.「日本語・韓国語・中国語の『動詞+授受動詞』」,『日本語学』2011年9月号,38-48頁。
- 大河内康憲 1980.「中国語の可能表現」,『日本語教育』第41号,日本語教育学会,61-73頁。
- 太田辰夫 1956.「『給』について」,『神戸大論叢』第7巻第1~3号,神戸市外国語大学研究所,177-197頁。
- 太田辰夫 1958.『中国語歴史文法』,朋友書店(新装再版2013)。
- 郭春貴 2001.『誤用から学ぶ中国語——基礎から応用まで——』,白帝社。
- 木村英樹 1981.「被動と『結果』」,『日本語と中国語の対照研究』第5号,日中語対照研究会,27-46頁。
- 木村英樹 2000.「“給”が使えない『ために』」,『中国語』2000年10月号,内山書店,32頁。
- 木村裕章 1991.「中国語の情報構造」,『北九州大学大学院紀要』第3号,123-150頁。
- 久野暉 1978.『談話の文法』,大修館書店(5版1985)。
- 倉石武四郎 1954.『中国語法読本』,江南書院。
- 倉石武四郎『岩波 中国語辞典 簡体字版』,岩波書店(1990)。
- 香坂順一編著『現代中国語辞典』,光生館(1982)。
- 奥水優 1985.『中国語の語法の話——中国語文法概論』,光生館。
- 奥水優・島田亜実 2009.『中国語 わかる文法』,大修館書店。
- 佐々木勲人 1997.「中国語における使役と受動の曖昧性」,筑波大学現代言語学研究会編『ヴォイスに関する比較言語学的研究』,三修社,133-160頁。
- 佐々木勲人 2006.「中国語における使役と受益——比較方言文法の観点から——」,『事象と言語形式(新装版)』,三修社,177-197頁。
- 朱德熙著／中川正之・木村英樹編訳『基本中国語学双書1 文法のはなし——朱德熙教授の文法問答——』,光生館(1986)。
- 朱德熙著／松村文芳・杉村博文訳「動詞“給”にかかわる統語論的問題」,『中国語学研究叢書4 現代中国語文法研究』,白帝社(1988),195-217頁。

- 杉村博文 2000. 「“給”の意味と用法」, 『中国語』2000 年 2 月号, 内山書店, 64-66 頁。
- 杉村博文 2006. 「中国語授与構文のシンタクス」, 『大阪外国語大学論集』第 35 号, 65-96 頁。
- 関光世 2001. 「“V 給”文の意味特徴に関する考察」, 『中国語学』第 248 号, 日本中国語学会, 153-167 頁。
- 高橋弥守彦・姜林森・金満生・朱春躍編著『中国語虚詞類義語用例辞典』, 白帝社(1995)。
- 張勤 1998. 『給』の素描」, 『中京大学教養論叢』第 39 卷第 3 号, 中京大学教養部, 91-128 頁。
- 藤堂明保・相原茂 1985. 『新訂 中国語概論』, 大修館書店。
- 内藤正子 1997. 「“給+V”構文に関する一考察」, 『中国語研究 ことばの性相』, 白帝社, 25-37 頁。
- 中川正之 1978. 「中国語の『有・在』と日本語の『ある・いる』の対照研究(上)」, 日本語と中国語対照研究会編『日本語と中国語の対照研究』第 3 号, 1-10 頁。
- 成戸浩嗣 2009. 『トコロ(空間)表現をめぐる日中対照研究』, 好文出版。
- 成戸浩嗣 2014. 『日中・日仏対照研究』, 好文出版。
- 成戸浩嗣 2015 a. 「日中対照研究方法論(1) — “給・N+V”表現と『N・格助詞』を用いた日本語動詞表現(上) —」, 『現代マネジメント学部紀要』第 3 巻第 2 号, 愛知学泉大学現代マネジメント学部, 77-86 頁。
- 成戸浩嗣 2015 b. 「日中対照研究方法論(1) — “給・N+V”表現と『N・格助詞』を用いた日本語動詞表現(下) —」, 『現代マネジメント学部紀要』第 4 巻第 1 号, 愛知学泉大学現代マネジメント学部, 21-30 頁。
- 成戸浩嗣 2016 a. 「日中対照研究方法論(2) — “給・N+V”表現とそれに対応する日本語使役表現、受益表現(上) —」, 『現代マネジメント学部紀要』第 4 巻第 2 号, 愛知学泉大学現代マネジメント学部, 27-40 頁。
- 成戸浩嗣 2016 b. 「日中対照研究方法論(2) — “給・N+V”表現とそれに対応する日本語使役表現、受益表現(下) —」, 『現代マネジメント学部紀要』第 5 巻第 1 号, 愛知学泉大学現代マネジメント学部, 27-40 頁。
- 西槇光正 1993. 「現代中国語介詞研究(二)」, 『語学研究』第 72 号, 拓殖大学語学研究所, 33-57 頁。
- 西槇光正 1994. 「現代中国語介詞研究(三)」, 『語学研究』第 74 号, 拓殖大学語学研究所, 31-57 頁。
- 三宅登之 2007. 「使役動詞と伝達動詞の接点」, 彭飛企画・編集『日中対照言語学研究論文集 — 中国語からみた日本語の特徴、日本語からみた中国語の特徴 —』, 和泉書院, 345-370 頁。
- 望月八十吉 1994. 「“給”について」, 『現代中国語の諸問題』, 好文出版, 31-44 頁。
- 山口直人 1988. 「“在+処所”に関連する 2 つの問題」, 『北九州大学大学院紀要』創刊号, 221-242 頁。
- 山口直人 1991. 「動補動詞の類型と形成について」, 『中国語学』第 238 号, 日本中国語学会, 115-124 頁。
- 山口直人 1993. 「日本語と中国語の複合動詞に関する対照研究」, 『東亜大学研究論叢』第 18 巻第 1 号, 121-147 頁。
- 楊凱栄 1994. 「受益表現について — “給”と『てあげる、てくれる』との比較を中心に —」, 『教養研究』第 1 巻第 1 号, 九州国際大学教養学会, 21-42 頁。
- 李臨定著／宮田一郎訳『中国語文法概論』, 光生館(1993)。
- 盧濤 1993. 「『給』の機能語化について」, 『中国語学』第 240 号, 日本中国語学会, 60-69 頁。
- 盧濤 2000. 『中国語における「空間動詞」の文法化研究 — 日本語と英語との関連で —』, 白帝社。
- 北京大学中文系 1955・1957 級语言班編《现代汉语虚词例释》, 商务印书馆(1982)。
- 高更生 1981. <“给”的词性和有关句子分析>, 《汉语语法问题试说》, 山东人民出版社, 156-162 頁。
- 龚千炎 1983. <由“V 给”引起的兼语句及其变化>, 《中国语文》1983 年第 4 期, 中国社会科学出版社, 241-249 頁。
- 郭翼舟 1957. <汉语知识讲话 — 副词 介词 连词>, 《汉语知识讲话 3》, 上海教育出版社(1987)。
- 《汉语知识》, 人民教育出版社 1959 (采華書林 1976)。
- 胡竹安 1960. <动词后的“给”的词性和双宾语问题>, 《中国语文》1960 年 5 月号, 人民教育出版社, 222-224 頁。
- 黄华 1992. <“动(形)+到+……”的结构分析>, 北京语言学院语言教学研究所选编《现代汉语补语研究资料》, 620-633 頁。(原载《天津师大学报》1984 年第 5 期)
- 黎錦熙編《新著國語文法》, 商務印書館(1955 年校訂本)。
- 刘永耕 2005. <动词“给”语法化过程的要素传承及相关问题>, 《中国语文》2005 年第 2 期, 商务印书馆, 130-138 頁。
- 刘月华・潘文娛・故韓《实用现代汉语语法(增订本)》, 商务印书馆(2001)。
- 吕叔湘 1979. 《汉语语法分析问题》, 商务印书馆。
- 吕叔湘主编《现代汉语八百词(增订本)》, 商务印书馆(1999)。
- 沈家煊 1999. <“在”字句和“给”字句>, 《中国语文》1999 年第 2 期, 94-102 頁。
- 施关淦 1981. <“给”的词性及与此相关的某些语法现象>, 《语文研究》1981 年第 2 期, 山西省社会科学院, 31-38 頁。
- 汤廷池 1985. 《華語語法與功用解釋》, 1985 年全美華文教師協會年會發表原稿。
- 向若 1960. <关于“给”的词性>, 《中国语文》1960 年 2 月号, 人民教育出版社, 64-65 頁。

- 杨欣安 1960. <说“给”>, 《中国语文》1960年2月号, 人民教育出版社, 66-68页。
- 叶盼云・吴中伟编著《外国人学汉语难点释疑》, 北京语言文化大学出版社(1999)。
- 袁明军 1997. <与“给”字句相关的句法语义问题>, 南开大学中文系《语言研究论丛》编委会编《语言研究论丛》第七辑, 语文出版社, 181-193页。
- 张伯江 1999. <现代汉语的双及物结构式>, 《中国语文》1999年第3期, 商务印书馆, 175-184页。
- 赵元任著/吕叔湘译《汉语口语语法》, 商务印书馆(1979)。
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室编《现代汉语词典》, 商务印书馆(5版2005)。
- 朱德熙 1980 a. <与动词“给”相关的句法问题>, 《现代汉语语法研究》, 商务印书馆, 151-168页。(原载《方言》1979年第2期)
- 朱德熙 1980 b. <汉语句法中的歧义现象>, 《现代汉语语法研究》, 商务印书馆, 169-192页。(原载《中国语文》1980年第2期)
- 朱德熙 1982. 《语法讲义》, 商务印书馆。
- 朱德熙 1983. <包含动词“给”的复杂句式>, 《中国语文》1983年第3期, 中国社会科学出版社, 161-166页。
- CHAO, Yuen Ren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. Berkeley: University of California Press.

用例出典

王海鸰・王朔《爱你没商量》, 华艺出版社(1992)。

(原稿受理年月日 2016年11月29日)